まなびや

探究の宝庫「すごろくの世界」～あそびはまなび～

すごろく禁止令（六八九年）

光る君や紫式部もはまっていたこはず！？

奈良時代の室内の遊びとしては、囲碁と双六がよく知られています。人々は双六に熱中し、物や家財をかける賭博へとエスカレートしたため、双六禁止令が出されるほどでした。正倉院には華麗な双六盤や碁盤、駒や碁石が残っており、聖武天皇や光明皇后も双六や碁に興じたことが偲ばれます。

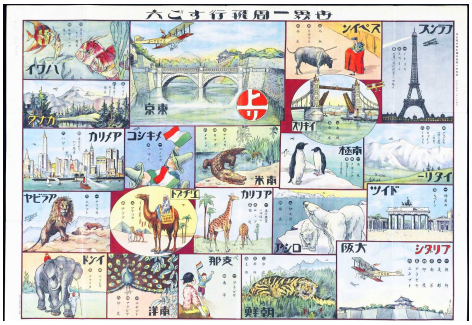
双六といっても、現在のようなサイコロを振ってゴールを目指すゲームではありません。インドから欧州で発展したバックギャモンと同じと言われる、古代インドで誕生し中国を経て渡ってきた盤双六です。白黒の二手に分かれ、盤上の15個の駒を２つのサイコロの目の数だけ進め、自陣から相手方に早く送り込んだものを勝ちとしました。

双六（盤・駒）江戸時代（玉川大学博物館蔵）

６８９年には双六禁止令が出され、７５４年には罰則も記されています。日本書紀、枕草子、源氏物語にも双六に興じる人々が書かれています。10世紀編纂の「延喜式」には身分の上下に関わらず双六を禁止すると述べられ、平安時代の人たちは身分を問わずにこのゲームにはまっていたようです。

江戸時代になると賭博はサイコロのみを使うようになり、18世紀末にはほぼ廃れました。その後、次第に紙に描かれたストーリー性を持つマスの上を、駒を進める絵双六に変化していきました。

夢の世界一周旅行！



世界一周飛行すご六　1925（大正14）年

１９６４（昭和39）年までは、観光目的の海外旅行は禁止されていて、世界旅行は人々のあこがれでした。

▼世界一周飛行すご六

ふりだしは大阪、上りは東京の飛び双六です。サイコロを振り、各地のマスに飛んだらマスの指示に従って移動します。

（朝日新聞社発行「コドモアサヒ」付録）

世界一周ゆうらん双六　1948（昭和23）年

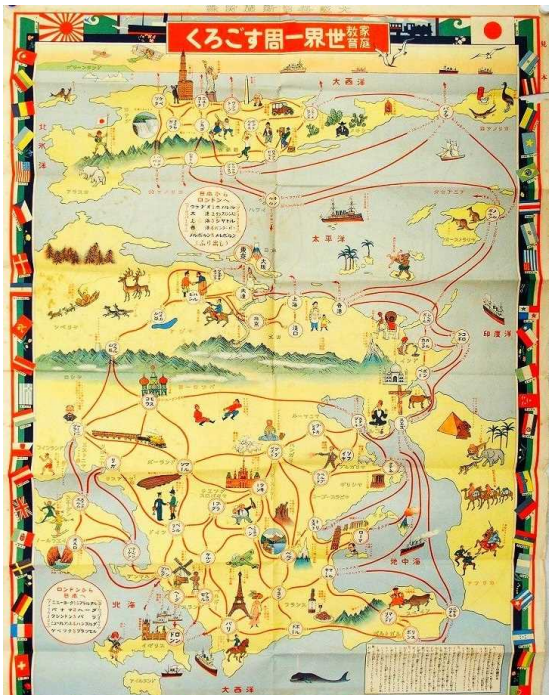
▼世界一周ゆうらん双六

画：ながいやす（朝日出版社発行・七尾市和倉昭和博物館とおもちゃ館蔵）

▼家庭教育世界一周すごろく

日本とロンドンを汽車や飛行機で移動します。マスには各地の特徴が描かれています。

（大阪毎日新聞付録）



家庭教育　世界一周すごろく　1926（大正15）年

特別展「すごろくの世界」

探究の宝庫　～あそびはまなび～

３月24日まで